

令和4年度採用 山梨県公立学校教員選考検査

中学校（美術）問題

「始め」という合図があるまで、このページ以外のところを見てはいけません。

注 意

- 1 この問題は10問5ページで、時間は60分です。
- 2 解答用紙は、別紙で配布します。「始め」の合図で始めてください。
- 3 解答は、それぞれの問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 「やめ」の合図があったら、すぐやめて係の指示に従ってください。
- 5 解答用紙を持ち出してはいけません。

中学校 美術

1

次は、中学校学習指導要領解説「美術編」の「第2章 美術科の目標及び内容 第2節 美術科の内容」の「教科の目標と学年の目標及び内容構成等の関連」の一部である。次の(1)、(2)に答えよ。

領域等		項目	内容の構成（全学年）		目標との関連
			指導内容	事項 指導事項	
領域	A 表現	(1)発想や構想に関する資質・能力	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想	(ア)感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想	「 I 」
			イ 目的や機能などを考えた発想や構想	(ア)構成や装飾を考えた発想や構想 (イ) ① を考えた発想や構想 (ウ)用途や機能などを考えた発想や構想	
		(2)技能に関する資質・能力	ア 発想や構想をしたことなどを基に表す技能	(ア)創意工夫して表す技能 (イ) ② をもって表す技能	「 技能 」
	B 鑑賞	(1)鑑賞に関する資質・能力	ア 美術作品などに関する鑑賞	(ア)感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する鑑賞 (イ)目的や機能などを考えた表現に関する鑑賞	「 I 」
イ 美術の働きや美術文化に関する鑑賞			(ア)生活や社会を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞 (イ)美術文化に関する鑑賞		
〔共通事項〕	(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して指導		ア 形や色彩などの性質や感情にもたらす効果の理解	「 II 」	
			イ 全体の ③ や作風などで捉えること	「 II 」	

(1) ① ～ ③ にあてはまることばを記せ。

(2) I と II にあてはまる資質・能力をそれぞれ記せ。なお、同じ記号には、同じことばが入るものとする。

2

次は、中学校学習指導要領「美術」の「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕 3 内容の取扱い」の一部である。次の(1)～(3)に答えよ。

3 内容の取扱い

- (1) 第1学年では、内容に示す各事項の定着を図ることを基本とし、一年間で全ての内容が学習できるように一題材に充てる時間数などについて十分検討すること。
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などについて説明し合うなどして対象の見方や感じ方を広げるなどの の充実を図ること。

- (1) 第1学年の年間授業時数を記せ。
- (2) にあてはまることばを記せ。
- (3) 「一年間で全ての内容が学習できるように一題材に充てる時間数などについて十分検討すること」とあるが、具体的にどのような点に留意する必要があるのか、「題材」と「指導計画」ということばを用いて、簡潔に説明せよ。

3

作品A、Bについて、次の(1)～(3)に答えよ。



- (1) A、Bの作者をそれぞれ記せ。
- (2) 作品Aのように、絵の具や塗料を滴らせたり、散らせたりすることで偶然できる痕跡を表現に生かす技法を何というか、記せ。
- (3) 作品Bのように、通常の四角形ではなく変形的な外形をもつキャンバスを何というか、記せ。

4

水墨画について、次の(1)～(4)に答えよ。

- (1) 水墨画を描く際、水の量を調整して墨の濃淡をつくることを何というか、記せ。
- (2) 水墨画の技法の一つで、輪郭を描かずに、墨の濃淡だけで対象を描く方法を何というか、記せ。
- (3) 水墨画や日本画で顔料が必要以上に染み込むのを防ぐために、あらかじめ紙に行うにじみ止めを何というか、次のア～エから一つ選び、記号で記せ。

ア. 水張り イ. どうさ引き ウ. 吹き付け エ. 媒染

- (4) 次の作品A, Bの作者名を、下のア～クからそれぞれ一つ選び、記号で記せ。



ア. 狩野元信 イ. 与謝蕪村 ウ. 長谷川等伯 エ. 長沢芦雪
 オ. 狩野永徳 カ. 円山応挙 キ. 雪舟等楊 ク. 海北友松

5

工芸について、次の(1)～(3)に答えよ。

- (1) 右の写真のように、色や木目などの異なる木片を組み合わせて、模様や図案を描き出す装飾技法を何というか、記せ。



- (2) 次のア～エの塗料の中で、表面に強力な被膜をつくり下地を保護するものをすべて選び、記号で記せ。

ア. 蜜蝋 イ. 漆 ウ. ニス エ. 亜麻仁油

- (3) 石などを彫って印鑑をつくることを何というか、記せ。

6

木版画について、次の(1)～(3)に答えよ。

(1) 木版画のように絵柄のない部分を削ってつくる版画を何というか、下のア～エから一つ選び、記号で記せ。

ア. 平版画 イ. 凸版画 ウ. 孔版画 エ. 凹版画

(2) 多色刷り版画をつくる際に、紙を置く位置が一定になるように版木に彫る目印のことを何というか、記せ。

(3) 次の作品A, Bの作者名をそれぞれ記せ。



7

マルチメディアについて、次の(1)～(4)に答えよ。

(1) カメラでピントの合う奥行きや光の量を調整する機能のことを何というか、記せ。

(2) 静止した物体を少しずつ動かしながらコマ撮りすることで、アニメーションをつくる技法を何というか、次のア～エから一つ選び、記号で記せ。

ア. パペット イ. ゾートロープ ウ. ピクシレーション エ. アルゴリズム

(3) 写真やビデオを用いて人物などを撮影して作品化する場合、相手の了解を得て行うなどの配慮が必要であるが、こうしたプライバシーを守る権利を何というか、記せ。

(4) パソコンで写真を加工する際に、不要な部分を切り取って画面を整えることを何というか、記せ。

8

彫刻について、次の(1)～(3)に答えよ。

- (1) 粘土のように可塑性のある素材をつけていくために、木材や針金などでつくった骨組みに麻ひもやシュロ縄を巻き付けたものを何というか、記せ。
- (2) 彫刻の要素の一つで、作品の形態が表す動きの感じのことを何というか、記せ。
- (3) 次の作品A、Bの作者名を下のア～クからそれぞれ一つ選び、記号で記せ。



- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| ア. ブールデル | イ. 高村光雲 | ウ. ザッキン | エ. 舟越保武 |
| オ. マイヨール | カ. 萩原守衛 | キ. ロゲン | ク. 佐藤忠良 |

9

美術科の授業では、個人による学習だけでなく、他者との学び合いによって、互いのよさや個性などを認め尊重し合えるようにしていくことも重要である。そのような学び合いを取り入れた学習活動の具体例について、簡潔に説明せよ。

10

美術科と特別の教科である道徳との関連を図っていくためには、どのような点に留意する必要があるか、簡潔に説明せよ。

中学校美術 解答例

1	(1)	①	伝達	②	見通し	③	イメージ
	(2)	I	思考力、判断力、表現力等		II	知識	

各3点

2	(1)	4 5	(2)	言語活動	
	(3)	第1学年において育成を目指す資質・能力を偏りなく身に付けることができるように			
		するため、比較的少ない単位時間で各指導事項の内容が身に付くような題材を効果的に位置付け、指導計画を作成する。			

(1), (2) 各3点 (3) 5点

3	(1)	A	ジャクソン・ポロック	B	フランク・ステラ
	(2)	ドリッピング		(3)	シェイプト・キャンバス

各3点

4	(1)	調墨			(2)	没骨法		
	(3)	イ	(4)	A	キ	B	ウ	

(1) (2) 各3点, (3) (4) 各2点

5	(1)	寄木	(2)	イ ウ	(3)	篆刻
----------	-----	----	-----	-----	-----	----

(1) (3) 各3点、(2) 2点

6	(1)	イ		(2)	見当
	(3)	A	萩原英雄	B	歌川広重

(1) 2点, (2) (3) 各3点

7	(1)	絞り		(2)	ウ
	(3)	肖像権		(4)	トリミング

(1) (3) (4) 各3点, (2) 2点

8	(1)	芯棒 (心棒)		(2)	動勢 (ムーブマン)
	(3)	A	ア	B	カ

(1) (2) 各3点, (3) 各2点

9	例えば, 表現の活動において制作の過程や完成段階などで, 学級全体やグループなど学習形				
	態を工夫して, 一人一人が自分の思いや工夫したことなどを発表したり, 他者のよさを認め				
	合ったりして, それぞれが学んだことを共有する学習の機会を設けることなどが考えられ				
	る。				

5点

10	美術科で扱った内容や教材の中で適切なものを道徳科に活用したり, 道徳科で取り上げた				
	ことに関係のある内容や教材を美術科で扱ったりすることが考えられる。美術科の年間指導				
	計画の作成などに際して, 道徳教育の全体計画との関連, 指導の内容及び時期等に配慮し,				
	両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。				

5点